

(学級活動)

「認め合い、助け合い、高め合う子どもを育てる」

—「それいいやん」「言ってよかった」「またしたい」があふれる話合い活動—

大阪市立小林小学校

1. 研究主題設定の理由

本校では、「自ら考え、すすんで学ぶ子(知)」「明るく、思いやりのある子(徳)」「友だちと仲良く、元気でたくましい子(体)」をめざす子ども像とし、学校教育目標を「たくましく未来を拓く子どもを育てる」として、日々の教育活動を推進している。令和3年度より特別活動に構成されている学級活動、とりわけ学級会について研究し、学校生活における課題や問題点を自分事としてとらえ、主体的に話合い活動に参加する中でよりよい生活や人間関係の構築を目指して取り組んできた。

1年目となる令和3年度は、研究主題を「認め合い、助け合い、高め合う子どもを育てる～自分の思いや考えをもち、主体的に話合い活動に参加する指導の工夫～」とし、教員自身が各学年の発達段階に応じた学級会の在り方を模索しながら、学級会の実践、話し合い活動の指導の工夫に取り組んだ。

2年目では、同じ研究主題のもと、副題を「それいいやん」「言ってよかった」「またしたい」があふれる話合い活動」と設定した。学級会に限らず様々な学習場面で話合い活動を積極的に取り入れたり、学級会の一連の活動を意識した実践を積み重ねてきたりした。

これまでの2年間の実践を通して、自分の考えや思いをもって学級会に参加しようという態度が身についてきたり、学級会で話合って決める良さを感じたりする児童が増えてきた。一方、自分の思いや考えを伝えるだけに留まり、その意見から話を深めたり広げたりすることや、話合いの中で意見を一つにまとめる指導の工夫が課題として挙げられた。

そこで、今年度は昨年度の研究主題、副題を継続とし、これまで取り組んできたことを引き続き大切に行いながら、さらなる学級会の充実を図っていきたい。

2. 研究の趣旨

本校の児童は指導者から与えられた課題については、最後まで丁寧に取り組むことができる。しかし、自分の思いや考えをうまく伝えることができる児童は多くない。令和2年度の学力経年調査の児童質問紙の「学級の友だちとの間で話合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」という質問に対して肯定的な回答をした児童が全体の半数であった。また、積極的に意見を発表できる児童だけが主体となり授業が展開することが多いという授業者の意見もあった。そこで、学級会の指導を通して、児童が自ら学級や学校の課題を見つけ、自分の事として興味をもって主体的に話合い活動に参画することをできる児童の育成を目標として研究を進めていく。また、学級会に限らず様々な場面の中で話合い活動を取り入れ、児童が自分の学級への所属感や自分の意見が認められたという自己肯定感の向上にもつなげていきたい。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点①学級全員が納得する合意形成の工夫

- 相手の考えに疑問をもったり案を練り上げたりする話合いの指導の工夫
 - ・ 少数意見の良いところに着目し、尊重する。
 - ・ いろいろな意見や考えの良いところを取り入れて新しい考えを創り出す。
 - ・ 双方が歩み寄る意見を考える。
- ハンドサインを活用し、自分の意見の可視化を図る。

視点②次の活動にいかすことができる振り返りの工夫

- 振り返りのワークシートを活用し、実践のめあてに対して成果や課題を明確にする。
- 実践の達成感や充実感を学級で共有することで、友だちとの繋がりを感じたり次回への意欲につながたりする。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 学級会を積み重ねていく中で、議題の解決方法を学級のみんなで考えていこうとする児童の意識が高まった。
- 事前活動に丁寧に取り組むことで、学級会に児童全員が意見をもって参加することができ、スムーズに話合いを進めることができた。
- 自分たちで決めたことを実践できる喜びを感じ、「またやりたい」と指導者に伝えてくる児童が増えた。
- 児童アンケートの「学校や学級がよりよくなるための課題に気づくことができますか」「自分の考えを発表することができますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を3年間で10ポイント以上高めることができた。この結果から児童が自ら課題を発見したり、自分の考えや思いを伝えたりする態度が育ってきたことがわかった。

(2) 今後の課題

- 児童の声が小さかったり、早口になったりして聞き取りにくい場面があった。「声のものさし」を活用する等して全体に伝わる声の大きさを意識できるようにする。
- 学級会の合意形成を図る場面では、全員が納得して決定できるような合意形成の仕方を工夫する。
- 児童が自分の思いや考えを伝えるだけに留まる場面がよく見られた。一人の意見から話を広げたり深めたりする話合いのスキルを高める。
- 高学年からの話合い活動の定着が難しかった。中学年、高学年と学級会がさらに充実したものになるよう低学年から少人数での話合い活動（ペア、グループでの話合い）の定着を図っていく。
- 指導者が積極的に考えや意見の伝え方の手本となる児童を紹介し、よりよい話合いになるような発表の仕方を児童に伝えていく。